

## 「私立学校の本当のすばらしさ」

埼玉県私立中学高等学校協会 会長 小川 義男



学制施行以来の我が国初等教育界には、大学従属の傾向が強かった。それは戦後も変わらない。

百年の愚策とも言うべき、「教員免許十年更新制」も、安倍内閣の主観的意図とは別に、初等中等学校の、大学への従属を強める結果となった。二十年、三十年を経た現場教師に、実戦経験のない学者諸君が、一体何をもたらしことができると言うのか。

この大学従属の傾向は、現場教師の保身と結びついて、戦後も一貫していた。これが、昔も今も、日本の教育の発展を、大きく妨げていると思う。

私立学校のすばらしさは、ここにある。我々は、設立者の学校設立理念に基づいて、誰にも拘束されることなく私学教育を推進している。勿論、「公の支配」に属する公的教育機関である以上、教育基本法や、私立学校法の理念は尊重しなくてはならないが、私立学校の教師に、「学者に色目を使う」必要は少しもない。ここに私立学校教育の本当のすばらしさがある。私立学校教師たるの地位に、私が大きな誇りを抱く所以である。

例年の私学研究大会が今年も行われる。優れた中央講師を中心に、各専門分野に従って、優れた講師の諸先生がお集まり下さる。

安倍内閣は基本的に素晴らしい内閣であるが、事、教育に関しては、幾つかの問題政策を抱えている。教育に対する財界支配の傾向も根強い。

国家と教育を発展させるものは、批判と批判精神である。本大会の成功を切望する。

## 「生涯の学びに」

埼玉県私立中学高等学校協会 研究・研修部長 深澤 一博



日本の子どもたちは学校へ行くことが楽しそうでない、と良く指摘されます。確かに世界では危険な目に遭いながら時間をかけ、学校へ一生懸命通う映像があります。

夢と希望を持ち学校へ行けることだけでも嬉しそうな子どもたちを見ますと、日本は近代以来、先人が教育の均等をはかり営々と作り上げてきた環境に、子どもたちからこのままでいいのかと突きつけられてもいるようです。

社会の一員としての自覚を持ち、豊かに暮らしていくためには、まず子どもたちに自分がやることに自信を持ち、様々なことに興味を持たせることがとても重要です。しかし現在はそれだけでは厳しく、そういった姿勢を周りの友達に理解して貰う行動も必要とされています。幼い頃から地域の中で異年齢集団での交流がある場合は、自分を理解して貰うためには表現力が必要だと自覚し、更に理不尽さにも耐える精神力も学んできますが、地域にも家庭にもそういった環境がない現代は、学校自らそういった学びの場をこしらえる必要があります。

私の勤務校では、特に中学生に自己表現力を磨く授業を積極的に取り入れております。日常的には気付きませんが、興味を持ったものに対しては、思いがけない時にその良さが発揮されます。来校したお客様が感心され帰ります。

英語では「教育」は「Education」、「学び」は「Learning」ですが、現状では教育の視点より、興味を持たせた学びからの視点を重視した教授内容を、作り上げていく必要があると気付かされます。

教師からの発信は生徒の一生を左右するものを含みます。新聞紙上でも自己体験を語るコラムに、必ずと言って良い程、自分の生き方に自信を持たせてくれた恩師が登場します。それ程の影響があるのだとの自覚を持ち、自分の教授方法の幅をこうした研究会を通し広げて欲しいと切に願います。